

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	平成22年2月24日	評価結果市町村受理日	平成22年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471300105&amp;SCD=320">http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471300105&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年3月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1 居室の窓から、高崎、鶴見、由布の山々が眺められ法人の病院や道を隔てて、医大病院があり健康面で安心して生活ができています。</p> <p>2 隣接した法人施設の行事に参加したり、定期的に外出行事を計画し居室に閉じこもらない様な声かけ、外出する事が馴染んでくる支援をしている。</p> <p>3 スタッフがさまざまなアイデアを出し利用者から昔の習慣、生活を教わり男性職員は、おにぎりの作り方、草花の名前を習ったりして家庭的で和やかな日々を過ごす取り組みをしている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医大病院に隣接した住宅地の一角にあり、事業所の窓から山々が見え、見晴らしがよい。</li> <li>・医療法人の経営で有床の診療所が隣接しており、院長を中心に医療との連携がとれている。</li> <li>・利用者が遠慮なく希望を伝えられるよう、職員は日々のケアに努めている。</li> <li>・自治会と「消防・防災活動相互応援協定書」を締結し、地域との協力体制を深めている。</li> </ul>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、地域のふれあいや関係づくりを大切にしたいという思いを込めた理念となっている。	「家庭的な環境の下・・・自立した生活を地域に密着して営むことができるように努める」という理念を職員で話し合っ作っている。全職員は会議やミーティングの中で、理念の意識確認を行っているが、今後事業所独自の理念を作り上げていくことが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が自治会に加入してグループホームへ市報が届けられ、地域の情報が伝わっている。また、近所の老人会に加入し、希望利用者と職員が参加して交流を行ったり、地域の祭りや保育園の運動会に参加して関係づくりができ、散歩で知り合った近所の方も花をくれたり、犬を見せてくれるなどなじみの関係もできている。	老人会や敬老会に利用者が参加して地域との交流を行い、自治会活動には職員が中心に参加している。散歩の途中で近所の人と挨拶を交わしたり、庭先に立ち寄ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし地域の高齢者の暮らしについて情報収集を行い、その内容を検討し、可能なものは、還元、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、利用者と家族の代表、市の担当者、地域の代表者(自治区長また民生児童委員)の参加により事故防止や苦情解決について話し合っている。また、意見や質問が積極的に出されグループホームとしてもケアに活かそうとしている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、地域の防犯パトロールの強化や新型インフルエンザ対策、地域との災害協力などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ運営上のことや困難事例発生の時に相談を行い指導を受けている。また、グループホームとしても市役所へ出向き具体的にアドバイスを受け質の向上に取り組んでいる。	市の担当者は、運営推進会議以外にも事業所へ立ち寄ってくれる。また、事業所も市の担当窓口に出向き、相談や指導を受けるなど、協働関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要が無く行っていない。出来る限り自由に安全に安心して生活が送れるように日々考え努めている。	身体拘束は行わない方針である。職員研修を行い、身体拘束を行わないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく言葉による虐待も見過ごされてはいけない問題である。このことについて全職員に強く指導しているところである。		

事業者名:グループホーム川崎(Ⅱ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ事例はないが、内部研修により認識を深め、必要な場合にはいつでも支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から契約時まで丁寧な説明を行い、個々の立場に立ってわかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見、要望、不満、苦情について気軽に引き出せるように努めている。また苦情相談窓口を設けている。	家族の面会時や年2回の家族会などで、本人や家族が職員に遠慮なく意見を出せるような雰囲気作りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議及びミーティング等を開催している。全職員が「報告」「連絡」「相談」し合える関係作り、話のできる関係作りを心がけている。	職員間のコミュニケーションを図り、意見をだしやすい関係作りを心がけている。行事の提案など、出された意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性について話合っている。また職員それぞれの適正を生かした役割分担をし得意な分野を伸ばしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は法人での研修が直ぐに実施され、段階に応じた研修に参加している。学習会が毎月一回開かれ、外部研修の内容を伝達発表し職員間で共有している。また、先輩職員が内部研修でレクチャーできる機会も設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が地域のグループホームと相互訪問を行い、広報誌や話題の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得よう努力している。入居時の相談時間はなるべく時間を多くとり、不安内容の明確化を図れるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、環境に慣れるまで利用者様からホームでの生活希望や不安を十分聞き、安心し納得していただけるよう対応している。また日頃から声かけをし、生活の中で不安等が生じた場合も利用者様と一緒に考え、対応に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安、悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービスの内容等についても相談し説明をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理を作りながら利用者は得意なことや昔のことを職員に教えている。例えば季節の草花の名前や活け方を、若い職員や男性職員に伝授したり、懐メロを流して知っている歌は、職員と一緒に口ずさみ楽しんでいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いている。また行事などをお知らせをし、共に楽しんでいただけよう配慮している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人等の訪問について配慮するとともに、手紙や電話で連絡が取れるよう努めている。	入居前より加入していた老人会へ引き続き参加したり、家族と馴染みの美容室へ出かけるなど、継続的な交流の支援に努めているが、利用者一人ひとりへの支援に至っていない。	これまでに聞き取った思いや意向、情報をもとに、利用者それぞれの継続的な交流の支援を期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心を許せる関係を築き、共に支えあい、助け合えるよう支援している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう、また相談事が生じた際には、いつでも気軽に連絡していただきたいとお伝えすることとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートに身体状況、身辺自立、社会性、生活歴、そして家族の思いや意見などを記入しており、入居時に本人からの情報と、日々のお話し合いで得られたことを把握している。また、意向の把握が困難な利用者に対しては、日頃の支援の中で反応や表情から探り出している。	入居時に本人や家族の思いを聞いている。日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、情報収集に努め、その人に合った生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身状態を把握し、有する力を発揮できるよう、出番や役割を見出し残存機能低下の防止及び日々の活力向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで職員、利用者、家族の意向を取り入れ介護計画を作成している。	ケアチェック表をもとに毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに本人や家族の希望や意向を聞き、職員で話し合い、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護計画にその日の利用者様の様子について記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の老人会へ利用者が参加して職員が付き添っている。また、通院の際家族が動向できない時は、職員が同行し支援を行っている。また、衣類の入れ替えなど家族ができない時は、利用者と共に自宅を訪問して行っている。		

事業者名:グループホーム川崎(Ⅱ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察との協力を大切にしている。また、新聞販売店が協力的に支援してくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科の医師が随時ホームに来て利用者の安心と信頼を得ている。入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、家族または職員が同行して受診したり、ホームの協力医療機関の定期的の診察や隣接した大学病院の受診を受けている利用者もいる。	本人や家族の希望するかかりつけ医である。併設医院の医師により健康管理が行われ、他の医療機関とも医師を通じて情報の交換がされている。受診結果は、家族や職員とも情報の共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは医療法人で運営されているため、診療所の看護師が常に健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり迅速な対応が可能である。入院先の医療機関の主治医と連絡を密にとり、早期退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の重度化や終末期を迎える際に、何度も医師やご家族様と話し合い、ホームでできること、できないことを見極め、利用者様にとって何が最も安心、安楽かを検討し、チームとして支援に取り組んでいる。また、家族の同意も得ている。	看取りを行う方針である。入居時に家族に説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、話し合いを繰り返している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時の備えとしてマニュアルを備え、随時対応できるように努めている。また勉強会において検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治区と防災協定を結んでおり、災害の発生したときは協力が得られるようになっている。避難訓練も定期的の実施して速やかに非難できるようマニュアルも用意して取り組んでいる。また、食品の備蓄は契約して直ぐに運搬できるよう準備している。	年2回、避難訓練を利用者とともにやっている。夜間を想定した訓練も行われている。自治会と「消防・防災活動相互応援協定書」を取り交わし、地域との連携を深めている。備蓄は委託して準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりを尊重して、優しい言葉掛けをしており、接し方もプライドに配慮した対応をしている。書類の取り扱いについても個人情報について学習し、取り扱いに注意を払っている。	利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライドを損ねないような声かけに配慮している。プライバシーの保護について、職員研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせ、出来る限り本人の意思を尊重し、職員はさりげなく助言をすることにより、利用者様の考えを導き出し、納得して生活を送れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な生活リズムはあるが、体調や気分により自室で過ごしている人や、日向ぼっこを楽しむなど自分で好きなように過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様、利用者様の希望により、ご家族様と一緒に行き慣れた店に行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や味付け片付けとできることをして、職員と同じテーブルで同じ物を食べて、味付けや材料、季節の話題など家族のように話をし、ゆったりと団欒をとっている。また、利用者の食べたい物や好きな物の把握もして献立に取り入れるよう配慮もみられる。	ご飯と汁物を利用者と一緒に作り、他のおかずは法人の厨房より運ばれてくる。厨房会議で好みや嗜好の要望を出している。職員は利用者と同じものや持参の弁当と一緒に食べ、会話を楽しみながら過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養、水分摂取量の目安を基に一人ひとりの状況を記録している。献立は好みなど取り入れ同一法人の老人保健施設の栄養士が作成し、バランスのとれたメニューである。また、嚥下機能に応じて刻みや柔らかい食事への配慮もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら、口腔ケアの支援を行っている。義歯の手入れも合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを知り、定期的なトイレ誘導にてトイレ内での自然な排泄ができるように可能な限り支援していく。	排泄パターンを把握し、個別に声かけ支援を行い、オムツから改善したケースもある。羞恥心に配慮した声かけを行うよう、心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりのペースに合わせた軽度の体操を行い、身体を動かす働きかけに取り組んでいる。また、排泄チェック表で確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴可能である。汚れが気になった時や失禁など場合に応じて入浴を実施し、体調や気持の変化に応じて清拭により、清潔保持を行っている。	利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるようにしている。最低でも週2~3回の入浴を心がけている。入浴を嫌がる人にも声かけやタイミングを図って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて気楽に休んでいただけるようにしている。また昼夜逆転を防止し、夜間良眠していただくために、日中は居間に誘うよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様全員の服薬情報を周知しており、服薬履行の際にチェック表の記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴からその人の得意なことを把握して、今の時点でできることの支援を行い、食事づくりの手伝い、配膳、庭掃除、花の水遣りなど能力を発揮できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、近所を散歩して戸外に出るよう配慮している。買い物も生活用品など近くのスーパーに出かけて、自分から行きたいと希望を引き出すよう工夫している。また、定期的な外出行事も実施して生活に外出することが馴染んでいる。個別においては、ご家族様と外出される機会を作り、行事としては花見や遠足等外出の場を設けています。	毎日の散歩を日課としている。散歩を嫌がる人も隣接する法人施設のカラオケや俳句教室などに誘い、戸外に出かけるよう支援を行っている。花見や梨狩りなど、季節のドライブの支援も行っている。	



事業者名:グループホーム川崎(Ⅱ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物に出かけた時は職員が見守り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけることが可能な方は、自由に電話を使用していただき、ご家族様や知人と連絡をとられている。また、必要に応じて手紙、ハガキを用意し、やりとりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所から頂いた季節の花を飾り、目で楽しみ香りを感じる心配りが見られる。また、お雛様の飾りなど節目の行事や催しなどを通してゆったりと昔馴染みの生活の工夫をし居心地良く過ごしている。	四季折々の花を飾り、季節感がある。大きな窓は明るく、周辺の山々の眺望が良く、季節の移ろいを楽しむことができる。利用者にとって馴染みのある物や懐かしい物などを置くように準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子、テーブル等を配置し過ごしやすいようにしている。またソファ等を置いて自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパート形式で各部屋には流し台やトイレなどがあり、仏壇、椅子、洋服掛けなど家庭での馴染みのものの持ち込みもあり、その人の個性や趣味を活かした居心地の良い空間である。また、自分の下着をベランダに干してあり家庭的である。	以前、アパートであった部屋を居室に利用しており、ミニキッチンや洗濯物を干せるベランダなど家庭的な雰囲気のある造りとなっている。イスやテーブル、布団など、それぞれ馴染みのあるものを取り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、要所には手すりが取り付けられている。		